

# News Letter

立教大学全学共通  
カリキュラム運営センター

## 2001年度の総合教育カリキュラム

全カリ運営センター総合教育部会

2001年度から、池袋5学部の学生のために開かれている総合教育のカリキュラムを刷新し、あわせて履修規程の改訂を行います。

全カリは教養教育の改革をめざして1997年度に発足しましたが、言語教育科目に比べて総合教育科目は多種多様な科目を含むこともあって、スタート時点では改革しきれなかった部分がありました。そこで、全カリの発足後も、積み残しの問題や実施後に明らかになってきた問題の解決をめざして検討が続けられてきました。その成果が、来年度から実施される新しい総合教育です。

今回の改訂の主な点は、全学部の専任教員が協力して展開するという全カリの総合教育科目の特徴を従来以上に生かして、科目内容を一新したことです。また、今日の実際の履修状況に応じた様々な教育上の試みが盛り込まれています。その概要は総合A群をはじめとして以下に示してあります。

次に、履修規程の一部を改訂します。全カリでは、学部の専門科目との総合化がつねに考えられており、全カリ科目は1年次から4年次にわたって履修されるものとして構想されているということが重要です。今回の履修規程の変更はそれにそったものですので、この趣旨を十分に理解した上で、計画的な履修を行ってほしいと思います。規程の具体的な変更点については、3ページ以下に説明されています。

### 総合A群

2001年4月からスタートする池袋キャンパスの新しい総合A群では、前・後期合計で約280の授業が開講されます。2000年度までと比較して、数の上では、ちょっとスリムになりました。それは、現在開かれている授業科目を総点検し、慎重に検討した結果、適切な開講数として決定されたものです。総数では少し減りましたが、その一方で、多くの科目が新設されています。その結果、これまで以上に、学生が自らの興味や関心にしたがって自主的に学んでいくことが可能な科目展開になりました。また、総合A群が全部で6つのカテゴリから構成されるという大枠には変更がありませんが、それぞれのカテゴリで開かれる授業の数については、学生の最近の履修動向に合わせて調整がなされました。履修希望者が相対的に多くなっている第2（歴史・社会）、第4（環境・人間）などのカテゴリで開かれる授業の割合をこれまでより大きくしました。この調整と、今回の履修規程の変更によって、特定の科目に極端に多くの履修者が集まることを抑制し、授業環境を改善することが期待できると考えます。

### ● 多彩な科目 ●

今回、総合A群に「多彩な科目」という科目グループがはじめて設けられました。このグループに属する前・後期合わせて40の授業は、総合A群の6つのカテゴリの中に分類され(\*)ます。このグループでは、立教大学らしい特色をもった科目や、時事的トピックを扱う科目を厳選したので、多数の学生が積極的に履修することが特に期待されています。「多彩な科目」は、とりあげられるトピックや問題設定が興味深いだけでなく、斬新な授業方法が構想されているといった点でも注目にあたいます。授業で扱っているトピックに詳しい学外の専門家や、その現場で働いている人々を、特定の回にゲスト・スピーカーとして迎え、担当教員と連携する形で講義に参加してもらうといった新しい試みです。これは、総合B群科目の長所を、部分的に総合A群の講義科目にとりいれたと言ってもよいでしょう。

この科目グループは、以下で述べるように、「立教科目」と「時事科目」とに大別されます。

注： 2001年度の「多彩な科目」には、第6カテゴリ（数理）に分類された科目はありません。

## ● 立教科目 ●

立教科目（略称はR科目）は、立教大学らしい特色あるテーマをいくつか決め、それぞれのテーマに関連する科目を複数展開するものです。テーマは、少なくとも数年間にわたって維持される計画です。2001年度からの出発にあたって用意したテーマは「人権」、「宗教」、「大学」、「都市」の4つで、合わせて22科目が開講（その内3科目は前・後期両方にあり、授業の数は25）となる予定です。多くの場合、同一テーマに関連する科目が複数のカテゴリで展開されており、あるテーマの関連科目を選んで履修していくことで、深さと広がりをもった学習が可能になるでしょう。

## ● 時事科目 ●

時事科目（略称はT科目）では、多数の人の関心をひく時事的なトピックをとりあげます。このグループの科目は新鮮さが重要ですから、1年か2年開かれると見直しがおこなわれます。2001年度の開講は、10科目（授業数は15）の予定で、「2002年サッカーW杯」とか「ネット時代の文化と法」といった非常に現代的なトピックを論じる科目が登場します。

## ● 英語による日本研究科目 ●

「多彩な科目」と並んで2001年度から総合A群に登場するのが「英語による日本研究科目」です。日本の歴史、政治、社会などを研究する演習形式の授業が行なわれますが、使用言語は英語で、特別外国人学生と全カリの学生が共に学ぶ点に特徴があります。

## ● その他の改革 ●

総合A群には、「多彩な科目」以外にも、2001年度にはじめて開かれる講義科目があります。その一部には、科目の性格をよりよく表現するために、既存科目の名称を変更した結果新たに生まれた科目も含まれています。また、「社会科学演習」、「歴史学演習」、「心の科学演習」などの新しい演習科目も作られました。これまで、学問領域によっては、講義が多数開かれているのに、関連する問題を学ぶ演習科目がないという場合があったのですが、2001年度からは、これらの領域にも演習科目が設置されました。

2001年度から、『履修要項』の中に総合A群の科目ごとに「科目内容」が提示されるようになることです（総合B群、情報などでも同様）。多数の授業の中から、履修科目を選択しようとする時、大いに役に立つはずですが、ひとつひとつの授業の詳しい内容や授業の進め方の細目に

については、これまで通り『授業案内』を見る必要がありますが、その前に、この「科目内容」欄で、まずその科目の目的や概要を簡潔に知ることができるのです。

## 総合B群

一つのテーマをめぐって、毎回複数の教員が協力して授業を進める総合B群科目は、視点やレンズを変えると、ものの見え方がどのように変わるのかを体験したり、異なった立場からかわされる討論に参加したりすることを通じて、多面的なものの見方、考え方に触れることを目指しています。この総合B群科目はいまでも大変好評でしたが、2001年度は一層拡充して、20科目（池袋5学部向け）を展開します。

## 情報

全カリでは、2000年4月に発足したメディアセンターと協力しながら、情報科目の充実を図っており、新しい科目も登場します。他方、2001年度の改編の一環として、これまで全カリで開講されてきた「情報科学3, 4, 5」は、名称変更の上、各学部の専門科目として展開されることになります。なお、これらの科目は一部の学部では必修でしたから、その学部では特に注意が必要です。これらの科目をすでに履修し単位を修得している場合には、これまでの規程に従って全カリの卒業要件単位となります。単位未修得の場合、全カリおよび所属学部の履修要項を熟読の上、その指示に従って履修してください。

## スポーツ実習

今年度、スポーツスタディ（2単位）科目が新たに加わりましたが、これをより一層充実させます。また、池袋5学部学生向けのスポーツ実習科目が、武蔵野新座キャンパスの体育施設を利用して行われます（新座2学部の学生も履修可）。

2001年度からスポーツ実習の科目名が変わります。スポーツ実習（1単位）科目はスポーツプログラム1からスポーツプログラム6までに、スポーツスタディ（2単位）科目はスポーツスタディ1からスポーツスタディ3までに変更になります。これは総合教育科目の履修規程の変更（3ページ以下）に伴い、多様なスポーツ実習を履修できるようにするための措置です。詳しくは2001年度の履修要項をよく読んで履修してください。

## 履修規程の改訂について

全学共通カリキュラム総合教育科目の改革にあわせて、履修規程についても改訂が行われます。

この改訂は、これまで科目群や学年ごとに異なっていた履修登録の仕方を整理し、わかりやすくすることに主眼がおかれています。また、学生諸君が慎重に履修計画を立て、履修登録した科目についてはきちんと学習し、単位をきちんと修得してもらいたいという願いが込められています。

### 学期あたりの履修登録単位数の制限が変更されます。

これまでの各学期あたり履修登録上限単位数は、(参考1)のようになっていました。

(参考1) 現行規程

学 年	総合A	総合B	情 報	ス ポー ツ
1～2年次	6単位	2単位	上限なし	上限なし
3～4年次	上限なし	2単位	上限なし	上限なし

2001年度からは、次のような変更がなされます。

- (1) 総合A、総合B、情報、スポーツのすべてを含めて8単位まで。
- (2) この8単位のうち総合Bは最大2単位まで。
- (3) 1～4年次生すべてが対象となる。

したがって、2001年度からの学期あたりの履修登録上限単位数は(第1表)の通りです。

(第1表) 改訂後

学 年	総合A	総合B	情 報	ス ポー ツ
1～4年次	2単位 合計8単位			

とくに、これまで総合B以外では制限がなかった3～4年次生については大きな変更となりますので、注意して下さい。

### 同一科目の重複履修にかんするルールが一本化されます。

これまで、同一科目の重複履修にかんするルールは(参考2)のようにジャンルごとに異なったものになっていました。

(参考2) 現行規程

学 年		総合A	総合B	情 報	ス ポー ツ
同一科目の 重複履修	同一学期	不可	不可	不可	可
	別学期	可	不可	不可	可
卒業要件単位		最初に修得した1科目のみ	—	—	修得したすべての単位

2001年度からはすべての科目について次のようなルールが適用されます。

総合A、総合B、情報、スポーツのすべてについて、

「同一学期には2つ以上の同一科目を履修することはできない。学期が変われば履修登録は可能であるが、その場合にも卒業要件単位としてカウントされるのは最初に修得した1科目のみである。」

新しいルールは、これまでの総合Aのルールを総合B、情報、スポーツにも適用したものです。総合Bと情報はこれまで学期が異なっても同一科目の履修登録ができませんでしたが、2001年度からは総合Aと同様に、学期が変われば同一科目を履修することが可能となりました。一方、スポーツはこれまで同一学期にも同一科目を複数履修することが可能で、その修得単位すべてが卒業要件単位としてカウントされるという特別の扱いがなされてきましたが、今回の規程改訂により、扱いが他の科目と一本化されました。新しいルールをまとめると（第2表）のようになります。

（第2表） 改訂後

学 年		総合A	総合B	情 報	スポーツ
同一科目の 重 複 履 修	同一学期	不可			
	別 学 期	可			
卒業要件単位		最初に修得した1科目のみ			

（注意）「同一科目」について

「同一科目」とは科目名も番号も同一の科目のことである。したがって、科目名・番号が同一であれば、学期・曜日・時間や担当者が異なっても「同一科目」とみなされ、逆に担当者が同一であっても科目名・番号が異なれば「同一科目」とはみなされない。

同一科目の例

- ・「歴史学の方法1」（〇〇先生担当）と「歴史学の方法1」（××先生担当）
- ・「スポーツスタディ1」（硬式テニス：〇〇先生担当）と「スポーツスタディ1」（トレーニング：××先生担当）

同一科目でない例

- ・「心の科学総論1」（〇〇先生担当）と「心の科学総論2」（〇〇先生担当）
- ・「スポーツスタディ1」（トレーニング：〇〇先生担当）と「スポーツスタディ2」（トレーニング：〇〇先生担当）

**在学生については、卒業要件単位数及び履修区分に変更はありません。**

情報科目の大幅な変更（2ページ参照）にともなって、2001年度入学者からは全学共通カリキュラムの卒業要件単位数及び履修区分が少し変わりますが、現在在籍している学生諸君については、卒業要件単位数及び履修区分は2000年度の履修要項に記載されているとおり（現状通り）変わりありません。

ここに紹介しました総合カリキュラムの改訂と履修規程の変更は、池袋にある5学部の学生のためのものです。武蔵野新座キャンパスにある2学部については、学部創設から4年を経過する2002年4月以降に、同様の改革を進める方向で検討が始まっています。

今号は、2000年11月21日に行われる、「2001年度全学共通カリキュラム説明会」において資料として配布されます。